



## 費用対効果は子どもの成長に当てはまるか？

宗行 孝之介 (日本YMCA同盟・東京武蔵野多摩クラブ会員)



最近は何んでも「餅は餅屋」ということで、教育の世界でも「専門家」がもてはやされているようです。さしずめ私なども一応「体験学習の玄人」ということでさまざまな学習現場からお声をかけていただいております。

人間関係の訓練はいわゆるセオリー（定番とでもいいますか）はあてはまりませんのであまり問題とはならないのですが、技術習得などの現場では「セオリー」の重要性は言うまでもありません。きちんとしたセオリーに基づいて指導すれば、スケートなら小学3年生くらいでしたら2時間の練習×3回で初心者が前進・バックはもちろん、クロスステップの導入までは十分可能です。

ヨットやスキーなども午前2時間、午後2時間の3日間で、ヨットならタッキング（風上での方向転換）の完成からジャイビング（風下での方向転換）の導入、スキーなら板は揃うところまでゆきます。ただし初心者から指導させてもらった場合に限りですが（クセのついている自称中級者はもうすこし時間が必要です）。

これはこれで指導者としてはとっても気持ちの良いことで、そりゃ初めてスキーを履いた子が3日目にリフト10本位すいすい滑れば「ふっふっふ」なんて表情も緩みますわな。費用対効果でいえば最高の効率です。

でもしかし……。これは白状すると「促成栽培」なんです。たしかにある種条件が揃ったところではOKなのですが、その後たとえばスキーで言えば暮れの志賀高原横手山の-13の状況。吹雪で前も見えず、でも宿舎にたどり着くためには滑らないと仕方がない。吹きだまりに突っ込んでこけてスキーははずれる。もう泣きそう！

ヨットでは風速10メートル強の海面でジャイブに失敗すれば即「沈」。ひとりで「沈起こし」した瞬間にまた「沈」。もう死にそう！もちろん私達指導者は子ども達の「安全」と「生命」ともっとも大切な「個人の尊厳」はどんなことがあっても守り抜きますが、ちょっとしんどい経験になります。

けれども私の言いたいのはこういったちょっとしんどい体験が子ども達を「強く」するという。「強くなる」ということは「自分から解決する」という能動性があるということです。

こうしてあらゆる自然環境のなかで過ごすことは何事も人の責任にしてしまう現代の日本の社会のなかでは決して獲得できない「適応力」と「タフさ」を育みます。ちょっと寒い、ちょっと痛いかもしれませんが。でも彼らも私達もこれからの人生、嵐や吹雪の日がないと言い切れるでしょうか。

そんな経験をさせてあげるのが私達大人の子も達へのプレゼントだと思っています。環境を受け入れ、それに適応する力はほんとうはみんな持っているのです。ちょっとトライしてみれば、ちょっと勇気を出せば、吹雪の中でも、雪質が変わっても、なんとかコケずにニコニコしながら元気よくスキーを楽しむことができるのです。

それともやっぱり費用対効果で促成栽培を選びますか？

お知り合いの子どもさんをお持ちの方にぜひYMCAキャンプをお勧め下さい！

(東京武蔵野多摩ブリテン 2010年11月)